



本行事は SDGs を応援します

佐鳴湖いきもの交流会

～佐鳴湖で、いきものと向き合う～

対面開催

静岡大学 地域連携応援プロジェクト「佐鳴湖プラットフォーム形成支援」行事として開催します

日時：2023年 1/21 (土) 10:00~16:00 22日はフィールドワーク

会場：静岡大学浜松キャンパス (浜松市中区城北) 共通講義棟21教室

主催：静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト

協力：入野漁業協同組合、椎ノ木谷保全の会、昆虫食倶楽部、うぐいすの里佐鳴湖創生会、浜松魚部、

佐鳴湖シジミプロジェクト協議会、NPO法人縄文未来・縄文楽校、三遠南信水機能活用研究会

参加費：無料 対象：佐鳴湖といきものに関心のある方ならどなたでも

佐鳴湖周辺にはたくさんの生物がいますが、どうも減っているものと、増えているものがあります。濁りがちな佐鳴湖の水のなかには、たくさんの魚やエビ、カニなどがいます。陸上には、植物、昆虫、その他の動物や微生物がいます。今回は、それらのいきものとどう向かい合っていけば良いか、考えてみましょう。

開会 (10:00)

講演 1(10:10)「生物多様性はなぜ重要か? ～人と生き物の関係から考える」

宮下直先生 (東京大学)

最近、総務省が行った調査によれば、国民の約7割が「生物多様性」という用語を聞いたことがあり、約3割がその内容を知っているらしい。この用語は、2010年に名古屋で開かれた生物多様性条約の締約国会議 COP10により、日本でも一定の知名度を確保したようだ。最近では、SDGsに押されがちであるが、生物多様性はSDGs全体を下支えする基盤として、その価値はますます高まっています。本講演では、私たちの日常生活が、驚くほど多くの点で生物多様性に依存していることを紹介するとともに、持続可能な発展とは何かについて考えていきたいと思います。

講演 2(11:10)「河川におけるニホンウナギの生活 ～生涯10年の半分はお休み中～」

鈴木邦弘さん (静岡県経済産業部)

伊東の河川において、ニホンウナギの月例採集を30か月間連続で行いました。その結果、成長は高水温期(≧15℃以上)に限られること、年間の成長が約5cm/年であることなどが分かりました。また、河川間で、来遊数、成長率、体長組成、雌雄比が異なっており、水温が影響を与えているものと考えられました。発表では、膨大な調査データを解析することで見えてきた、河川における彼らの生活を分かりやすく紹介します。

講演 3(13:00)「ニホンイシガメを守る、それは悩み多き戦いである」西堀智子さん (和亀保護の会)

2004年和亀保護の会を設立して以来、私たちは大阪の都市河川においてニホンイシガメの保全の為に外来種防除や清掃活動、小さな自然づくり、生息地の親を使ってのニホンイシガメの繁殖など様々な活動を行ってきました。その結果現在では...と言いたところですが、そうは問屋が卸してくれませんでした。想像された問題には何とか対処もできましたが、そうでない問題もありました。2021年時点での自己採点は50点。データを分析してさらに何をすべきか見えてきた時、あまりにも不条理な問題が起こりました。保全を成功させるためには何が必要か、18年の経験をお話したいと思います。

各活動団体の報告、交流(14:00～)

申込、問合せ先:

〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学工学部 戸田三津夫
電話 053-478-1146, 電子メール: toda.mitsuo@shizuoka.ac.jp

参加を希望される方は、件名を「佐鳴湖いきもの交流会202301参加希望」とした電子メールにて、
[代表者の氏名(ふりがな)] [所属(任意)] を明記し、toda.mitsuo@shizuoka.ac.jpあて、1/16までに事前申込をしてください。